2004.9.20　北区飛鳥山博物館だより

ぼいす 13

秋期企画展

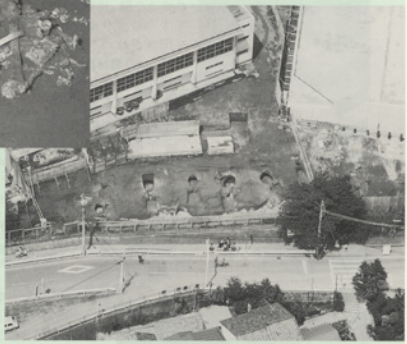
赤羽台の横穴墓（おうやつはけ） ～古代人と葬送習俗～

会期：2004年10月23日(土)～12月5日(日)　10:00～17:00
会場：北区飛鳥山博物館　2階　特別展示室・ホワイエ

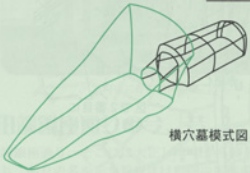
※観覧無料

▲出土した須恵器壺

◀墓室から発見された人骨



▲上空から見た横穴墓群



横穴墓模式図

崖にぽっかりあいた穴、細い通路の先に部屋が……。
原始・古代の日本ではこのような横穴墓とよばれるお墓が数多く作られました。北区赤羽台でも横穴墓が発掘され、なんと人骨が埋葬されたときのまま出土、大発見となりました。この企画展では、
"横穴墓とは何か？"
"古代人の葬送習俗とはどのようなものだったのか？"
など、赤羽台横穴墓群の調査成果から知られざる古代人の姿を描き出します。横穴墓の実物大の型取り模型や、実際に発掘調査で出土した人骨と古代人の復顔模型など多彩な展示品を一挙公開！
あなたは古代人に会えるかな?!

▲ぽっかりあいた横穴墓の入口

クローズアップ 田端

まわって、巡って田端へGO!

田端は坂が多い町として知られています。起伏に富んだその土地には昔、川が流れていたそうです。また、お寺や神社もよく目に付きます。なんでも江戸の頃から人々がこぞってやってきたお寺もあるとか。門前にある、赤い紙を体中に貼られた石像もとっても不思議。あの芥川龍之介も住んでいた田端。ぐるりと回るＪＲ山手線の田端駅から、まわって、巡って町探検へＧＯ！

★江戸の寺社巡り

江戸の昔、春秋の彼岸の頃に六カ所の阿弥陀仏を巡拝することが流行りました。これを六阿弥陀詣といいます。この六阿弥陀詣の四番目の札所が田端の与楽寺です。ちなみに一番目が豊島にある西福寺で、三番目が西ヶ原の無量寺です。なんと六カ所の内三カ所が北区内にあるんですね。さて、同じ寺社巡りでも七福神詣は耳にしたことがあると思います。よく知られているのは隅田川七福神ですが、谷中七福神は江戸では最も古いといわれています。その中の一つ、福禄寿が田端の東覚寺です。このような巡拝はご利益を求めた信仰が目的ではありますが、季候の良い頃に行楽として出かけていったともいえます。みなさんも正月に、春に、秋にちょっと巡ってみてはいかがですか。

門前の標石（大正10年）

田端散策マップ

赤紙だらけで前も見えない!?

★体中赤紙だらけ　東覚寺の仁王様

東覚寺の門前に２体の石の仁王様が立っています。でも、顔といい、体といい、そこら中に赤い紙が。“赤紙仁王”と呼ばれるこの仁王様は、自分の患部にあたる病の場所に東覚寺で頒布する赤い紙を貼ると治るといわれています。それで赤い紙が貼ってあるんですね。でも、いたるところに貼ってあるということは、どんな病でも治るということ？きっとご利益があるのでしょう。さて、この仁王様、造られたのは寛永18年(1641年)のことで、江戸時代の書物『江戸名所図会』によると元々はお隣の田端八幡神社の参道に立っていたもので、明治の時に現在地に移されたようです。(直)

★田端で発見！かわいい動物たち

八幡神社のそばにある上田端児童遊園にはとってもかわいい動物のオブジェ？があります。アレっ⁉この３匹どこかで・・・？そうそう、飛鳥山公園内の子ども広場にも同じものがあるんです。さらに田端公園にもこの子達の兄弟が居るらしいという噂が・・・。ということは、３つの公園は同じ頃に造られた？まだまだ探せば兄弟がたくさんいるような気がします。もしお近くの公園でお見かけしましたら、ぜひぜひお教えください。　(Y)

★谷田川の語り部

谷田川通りにある水神稲荷神社。なぜこんなところに水神様が？そう、谷田川通りはその名の通り、昔、谷田川という川でした。水神稲荷の前が野菜の洗い場として使えるほどきれいだったそうです。しかし、時代の変化と共に汚れ、ついに上に蓋がされ、道路になってしまいました。さて、昔は川だったという名残りは田端八幡神社にもあります。鳥居の前にある石は谷田川にかかっていた谷田橋の橋板です。川が無くなったので移築したのですね。今はもうない谷田川。しかし、そのかすかな記憶は今も町に存在し続けています。　(M)

町中に佇む水神稲荷

★田端・坂道紀行

北区の地形は台地と低地にわかれているために坂が多い。田端の町を歩けば何度も上り下りを繰り返す。区でも２番目に大きいスダジイの木の脇の、情緒ある坂を下れば与楽寺の門前に出る。さらに進めば与楽寺坂。緩やかなカーブを上りきり、十字路を左に折れると間もなく左に上の坂。芥川龍之介はこの坂上の西側に住んでいたらしい。田端の坂は昔の風情が残っているところが多い。そんな坂を、ゆっくりと歩を進め、ちょっと顔を上げて一休み。なにか少し昔に戻ったような気にもなったりして。　(N)

上の坂を見上げる

★田端銀座通りの今、昔

田端銀座通り。そこには大正10年頃から商店が集まり始め、商店街ができました。昭和37年頃の写真では木製の電柱が立ち、通りの名を示す看板には現在の振興組合の前身にあたる銀商会の文字もみえます。今では右角のお菓子屋さんは焼鳥屋さんに変わってしまい、左角の「森永エンゼル会の店」はビルになっていました。でもビルの名に森永がついているところはかすかな名残りです。お店は変わってしまいましたが、子ども連れでの買い物姿などは昔と変わりません。独特な？音楽、気さくな店員さんなど、昭和の面影を感じ取ることができる。そんな商店街です。　(雨)

昔

今

（倉田正義氏撮影）

大地・水・人　水面に映る秋の景

尾形月耕「花美人名所合　滝の川紅葉」

石倉　孝祐

北区飛鳥山博物館は「大地・水・人」をテーマとして平成10年３月に開館しました。「大地・水・人」とは高台と低地という北区を特徴づける自然地形に、３万年の昔から現代まで人間がどのような文化を刻み込んできたのかという問題を、たんに自然環境に人間が決定づけられるだけではなく、人間が自然環境にどのように働きかけてきたのかという視点から再構成したものです。この「郷土風土博物館」の実現こそ、北区飛鳥山博物館の基本的な設置目的であります。

それでは郷土風土博物館実践のひとつの事例として３枚続きの大判錦絵を対象に検討してみましょう。ご覧の資料は「花美人名所合（はなびじんめいしょあい）　滝の川紅葉」（大判３枚続　尾形月耕作　松木平吉版元　明治29年（1896）作）です。尾形月耕（1859～1920年）は江戸に生まれ姓は名鏡、名は正之助といい、桜斎・名鏡斎・華暁楼と号しました。独学で絵を学び写生に忠実な作風を獲得して、やがて岡倉天心の美術運動に共鳴し1898年の日本美術院創設にも参加しました。また小説の挿し絵や商業雑誌にも丹青極めた絵画を載せ、今でも『風俗画報』（当館でも全冊所蔵）などに華麗な作風を見ることができます。

画面を見ると蛇行する石神井川が形成する渓谷地形のなかに、秋の紅葉が映えています。享保年間に徳川吉宗が楓を植樹して以来、滝野川は紅葉の名所として有名で、付近には紅葉の名所である金剛寺（別名紅葉寺）を始め滝野川園・楓楽園などの紅葉狩りの庭園があるなど、近郊の手頃な行楽地として人気を集めました。遠景には江戸時代そのままに瀟洒な橋と亭々（ていてい）とした樹木が聳えています。手前に目を移すと毛氈（もうせん）を敷いた茶屋には「御料理」の幟が掲げられ、３人の女性が配されています。細密画のような克明なまでの服装への関心はこの絵の鑑賞者の視線を反映しているかのように詳細を極めるとともに、紅葉の枝を手にしてやや急峻な崖線をのぼる女性の息づかいと、これを欄干にもたれて指さす真ん中の女性、左の立ち姿の美人と３人の構図はそれぞれに動きが連動して生き生きとしています。３人の視線は互いに行き交い構図は見事に直角三角形をあらわし、トリオロギー（三位一体）の安定した構成を描くことに成功しています。江戸以来の滝野川の紅葉狩りを題材に近代的視点で再構成したこの美しい絵画空間には、明治中期の秋の一日の中に、さまざまな人生の姿を川面に映し出しているといえましょう。

さてこの絵の描かれた明治29年の滝野川地域は、水量豊かな農業用水としての利用はもとより、水車を動力とした近代工業濫觴の地でもありました。農業用水・工業用水としての水利環境は絵の表面には描かれていませんが、この構図とほど近い地点には明治初期以来展開した軍工場があり、いわば、絵画テクスト外部に潜在する存在となっています。日清戦争１年後の秋の景の中に、自然渓谷を彩る紅葉の名所と同時に近代工業の立地性にも思いを馳せることも可能でしょう。ひとつの絵の中で背景にある事実との関連を検討することにより、はたしてこの絵画が「江戸時代と地続きの日常」なのか「近世と近代との間隙に花咲く一日」なのか興味つきないものがあります。

イベントレポート

博物館に現れたお狐さん　企画展「狐火幻影～王子稲荷と芸能」

浮世絵「名所江戸百景　王子装束ゑの木大晦日之狐火」の美しさ、そして大晦日に王子で行われている「狐の行列」の賑わい…。江戸時代から現代に伝わる狐火のファンタジーに触発されて企画したのが、今春開催した「狐火幻影～王子稲荷と芸能」（3月13日～5月5日）です。

「毎年大晦日の晩、王子・装束榎のもとに集まった稲荷の神使・狐が装束を改めて王子稲荷に参詣する」という伝説に彩られた王子は、絵画や文学そして芸能の中でしばしば狐と結びつけられて表現されてきました。今回の展示では「王子稲荷」「狐」というキーワードを縦糸に、色とりどりの横糸を絡ませ、今も王子の地に地霊のように残るミステリアスなオーラを表現したい、という思いがありました。

そこで、第1部で王子稲荷の狐火伝説と稲荷の神使・狐について、第2部では王子稲荷の申し子と呼ばれた女形・王子路考（二代目瀬川菊之丞）や王子の紙人形のモデルとなった市川団十郎、また王子を舞台とする芝居や役者絵について、そして第3部では近代以降の王子稲荷とその周辺の変化を追う、という3部構成をとりました。

また関連イベントとして、講義に加えて落語「王子の狐」を堪能した「落語de王子」、王子に関連する浮世絵の講義と端唄の演奏と落語「王子の狐」の豪華三本立て「大江戸ビジュアル＜王子＞～浮世絵・端唄・落語～」、続いて「企画展ギャラリー・トーク」、体験講座「江戸時代の王子土産・狐の紙人形を作ろう！」、そして江戸中期のファッション・リーダーでもあった王子路考にちなみ結髪文化の講義と結髪実演を組み合わせた「実演◆お江戸のヘア・メイキング」を行いました。

展示室入口には鳥居も！

「狐火幻影」は多くの方々のご助力を得て、また例年より早く、長く咲いてくれた桜にも助けられ、約18,000人の方々がご観覧下さいました。また、展示を見た後、王子稲荷へ足を伸ばされた方が多かったことも大変嬉しく思っています。

夢を見ることさえ難しい今の世の中だからこそ、ほのかに灯る狐火の残像に多くの人々が心惹かれるのではないか…そんな思いを残した展示となりました。　(K.K)

写真に見るあの日あの時

昭和二十六年　王子神社

この写真を見て被写体の場所がすぐ特定できる方は結構北区通かも。普段見慣れている風景でもそこに本来あるべき要素が欠けていると違ったものに映ってしまうことがあります。正解は、現在の北区役所本庁舎あたりから眺めた王子神社・飛鳥山方面です。撮影時期は昭和26年11月7日で敗戦間もない頃の様子を比較的よく伝えています。王子神社は沿革が康平年間(11世紀半ば)に遡る区内でも古い神社ですが、昭和20年4月13日に米軍の空襲に遭い鳥居・本殿や神楽殿・鬱蒼とした鎮守の森などはことごとく焼けてしまい、石造の常夜灯・標柱・石碑などを残すだけとなりました。その由来が鎌倉時代と伝えられているイチョウの巨木は火に強いため辛うじて焼け残りましたが、初冬の町の中でいかにも寒々としています。このときの空襲は北区の地を広範に焼き尽くし、神社仏閣をはじめとして古くからの文化遺産も多くが失われました。昭和27年に復興奉賛会が結成されると、神社は徐々に再建され現在は鎮守の森もすっかり樹勢を回復しました。　(守)

手川文夫氏撮影

新着資料の紹介

団扇絵「飛鳥山」
香蝶楼（歌川）国貞画　天保11年（1840）

手鏡に映る飛鳥山の風景を背景に、晴れやかな風情の娘が描かれている団扇絵です。背景に描かれた茶店の提灯に「王子開帳」とあるように、天保11年（1840）2月28日から60日間行われた王子稲荷の開帳にあわせて、香蝶楼国貞が描いた作品です。王子稲荷では飛鳥山の花見時にあわせて開帳をおこない、相乗効果で参詣客増加を狙ったようですね。商売がうまい?!　(K.K)

ぼいす

博物館で燻蒸するということ

中野守久

毎年春が過ぎ梅雨時期になると、あちこちの博物館で臨時休館の掲示がみられるようになります。多くは収蔵庫の燻蒸・資料整理という名目で、大体５日前後が多いでしょうか。当館でも平成16年度は６月28日から７月２日まで燻蒸のため臨時休館をいたしました。

そもそも燻蒸とは何でしょうか。博物館には古い貴重な資料を長期間にわたり適切に保管する収蔵庫があります。そうした資料は時には展示あるいは貸し出しのため収蔵庫から外に出されます。また、学芸員が資料の整理や調査研究のため、頻繁に出入りすることもあります。収蔵庫には頑丈な扉があり、庫内は温湿度調整が図られ外の影響を受けないように設計されていますが、扉を開け閉めすることによって、害虫の成虫やその卵、微生物や黴の類が庫内に運ばれ資料を侵していきます。そのために、害虫や微生物の繁殖が活発化する初夏を中心に収蔵施設ごと薬剤ガスで消毒して資料の劣化を防いでいくわけです。

わが国では、昭和54年に旧東京国立文化財研究所が研究開発した、殺虫効力のある臭化メチルと殺菌効力のある酸化エチレンの混合ガス（エキボン）が約四半世紀にわたり広く国内で使用されてきており、虫害から文化財や博物館資料を守ってきました。

ところが、平成４年11月にコペンハーゲンで開催された「オゾン層を破壊する物質に関する第４回モントリオール議定書定約国会議」で臭化メチルがオゾン層を破壊する物質に指定され、平成17年１月までにその製造・使用が全廃されることになったのです。このことは博物館関係者を少なからず動揺させました。エキボンは殺虫殺菌効果も高く安定生産されていましたので。しかし、地球環境存続のためではどうしようもありません。

当館では次年度から環境に負荷が少なく効果の高い代替ガスを用いた燻蒸を行うことを検討しています。貴重な博物館資料を将来にわたり永続的に保全管理していくために。

あるくみるきく

小さな祠にも刻まれし歴史あり

疾走する猪の背に立つ
摩利支天像

怒怒形でも内実は慈深い
不動明王像

「まず外へ出なさい!!」との某先輩の一喝でＪＲ上中里駅に降り立った私。まず蝉坂を登ろうと、数歩進んで右手を見ると、むむむ…何かある！「上中里西方不動尊」の赤い幟。重い体で脇の石段を駆け上がると、人造の岩山の中に二基の石仏。頭を垂れてにじり寄ると、正面右手は不動明王像、左手は台石に御嶽行心講の銘をもつ三面摩利支天と判明。館に戻り、資料で確認すると享保２年の銘をもつ不動明王像は、石神井川用水への橋戸橋架橋完成記念供養として現在地より北方の低地に建てたものとか。境内に残る大正３年と昭和15年建立の石碑は、数度の道路拡張や電鉄工事による移転の証拠。小綺麗な境内が、常に信仰を欠かさぬ地域住民の想いを伝える。また、本来の蝉坂はこの石段であるとの説にも、登ってみて納得。足元の歴史を探る旅を、皆様も是非。（洋）

博物館インフォメーション

子どもも大人も！「来て、見て、さわって！昔の道具」

平成17年1月6日（木）～2月27日

冬の恒例となった「来て、見て、さわって！昔の道具」。本来、小学校3・4年生の社会科学習に対応して、昔の生活用具の展示見学と体験学習を組み合わせたプログラムを行うものですが、学校の団体利用がない日は展示を一般公開しています。

古い生活道具は大人たちにとっても懐かしいもの。お孫さんと一緒に、親子で、あるいは大人同士で、古い道具に囲まれてミニ・タイム・スリップ！癒しのひとときを楽しんでみてはいかがでしょうか？

ちゃぶ台の上の食事も再現！

＜一般公開日＞

1月6日（木）～16日（日）※1月11日を除く
上記の期間以降は毎週土曜日・日曜日および
2月11日（金）

ミュージアムバッジ好評発売中！

今年のお花見の時期より販売を始めたミュージアムバッジ。おかげさまで好評を博しています。館のキャラクター"コン吉"くんの顔のスタンダードタイプは8色から選べます。桜をデザインしたシニア向けの「桜バッジ」。コン吉くんと季節の風物が描かれた「季節限定バッジ」もあります。さて、このミュージアムバッジ。実は簡単なプレス機を使った手作りなんですよ。デザインもスタッフが考えています。季節限定バッジは冬に登場予定です。こうご期待。

夏バージョンの「花火」

HPが新しくなりました！

ホームページ

博物館のホームページがこの7月よりリニューアルいたしました。より見やすく内容も増量。子どものページもできました。"ぽいす"のバックナンバーも見ることができます。HPアドレスは
http://www.city.kita.tokyo.jp/history/museum/index.htm
です。いますぐアクセス！

人物往来

今年の3月31日をもちまして、山口隆太郎学芸員が北区教育委員会生涯学習推進課文化財係に異動いたしました。3年の間でしたが、展示や講座での奮闘、お疲れさまでした。また、後任として中野守久学芸員が博物館に復帰いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。

お客様の声

企画展や催し物に寄せられた"ほいす"を御紹介します。

スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5★2004★」より

解説がとても丁寧でわかりやすくよかったです。特に「つぶやき」という口語体での親しみやすい解説のアイディアには感動しました。これからもすてきな企画を！（江東区30代女性）

現代のくすり袋も100年後にはすごい貴重品になるのかなあと考えるとおもしろいですね。（区内30代女性）

春期企画展「狐火幻影～王子稲荷と芸能」より

浮世絵をはじめ、豊富な資料に興味がわきました。江戸時代の民衆の信仰、風俗、芸能などに大きな役割を果たした王子稲荷がよく理解できました。さて、本日、王子のキツネに化かされました。上着のポケットに入れたはずの紙入れがティッシュに化けていました。（化けたのではなくポケたのでしょうね？）この辺がよろしいようで！（文京区70代男性）

むかしの王子を知ることができて嬉しかった。現在の殺風景な王子とは比べ物にならない華やかさを感じるのは菊之丞さんのおかげでしょうか。そして狐も何時もわるさをすると、さげすまされてきたけれど、我々人間と共存してきた愛すべき動物でした。開発の名のもとに町民文化を消し去ったおろかさをなげきます。（豊島区70代女性）

夏休みわくわくミュージアム04「第1回夏休み勾玉づくり教室」より

腹側を削っているときはなかなか削れないので、200％「縄文人にはなりたくない!!」と思ったけれど、その後の作業は－80％ぐらい減りました。でもやっぱり現代人がいいです。（小5の親）

昔の人はすごい!!一つの事を根気強くすることは最近私自信まれですが、子どもと同じことを同じ時間に一緒にして、とても有意義な時間でした。（小4の親）

夏休みわくわくミュージアム04「キツネのお面づくりに挑戦！」より

手が痛くなるほど、とても、とても大変でした。もうやりたくないけど、おもしろかったです。（小4）

お面のデザインを考えるのが楽しかったです。お母さんに描いてもらったけど…。（小3）

夏休みわくわくミュージアム04「第6回博物館クイズラリー」より

普段はつい見逃してしまう展示を、探しながらゆっくり見る事ができました。かくれコン吉を探すのも楽しかったです。（小4の親）

むずかしかったところ：公園の問題がむずかしかった。おもしろかったところ：ぜ～んぶおもしろかった。（小4）

古い写真探しています。

みなさんのお宅に古い写真はありませんか？博物館では戦前から昭和50年代までの北区の街並みや人々の暮らしぶりがうかがえるような写真を探しています。近所の路地、まちのお祭り、商店街の風景など、何気ない一コマが貴重な情報となることがあります。刻々と変わる北区の様子を記録しておくために、皆様のご協力をお願いいたします。ご一報は03-3916-1133担当クボノまで。

※写真は一時お預かりさせていただいて、複写させていただいた後、ご返却いたします。

学芸員リレーエッセー

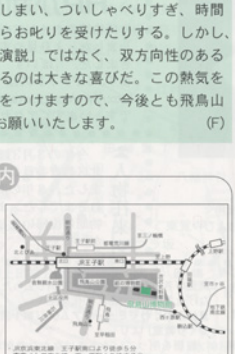
博物館いろは歌留多

れ 講座に立てば マイク離さず　念仏

お客さんと学芸員の接点はいろいろな形があるが、僕がこれまでやってきて印象深かったのは、やはり講堂での講座だろうか。講座とは1対大勢なので、とにかくただごとではない。一見流暢に話す学芸員でも内実はアヒルが水中で足をばたつかせるがごとく、前日まで（時には当日の朝まで）研究室にこもって必死で準備をしているのだ。これが僕のような口下手な人間になるともう大変である。一種の覚悟みたいなものを決めて、とにかくネタを準備する。本番直前まで構成をどうするか悩む。綾小路〇みまろは前フリをいくつか用意して、前座の舞台袖からお客さんの反応を見て選ぶそうだが、僕はあれば良い方。しかし、いざ始まると、とにかくお客さんが熱心に聴いてくださる。ときには「うん、そうぢゃ、そこなんぢゃ！」と力強いあいづちが聞こえるときもある。そうなるとこちらがのせられてしまい、ついしゃべりすぎ、時間超過でアンケートで多くの方からお叱りを受けたりする。しかし、この博物館の講座は一方的な「演説」ではなく、双方向性のある「対話」であることを実感できるのは大きな喜びだ。この熱気を大切にしつつ、時間厳守にも気をつけますので、今後とも飛鳥山博物館の講座をどうぞよろしくお願いいたします。 (F)

利用のご案内

【開館時間】
午前10時～午後5時
（有料の展示室への入場は午後4時30分まで）
【休館日】
毎週月曜日（国民の祝日・振替休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
国民の祝日および振替休日の翌日（土曜・日曜日の場合は開館）
このほかに臨時休館日があります。



【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をごらんになれます。

編集後記

ぽいす13をお届けいたしました。今号の特集“クローズアップ田端”はいかがでしたか？この記事はちょうど8月のお盆のあたりに取材に行きました。取材に当たったのは博物館実習生の4人と私です。30度を大きく超える暑い最中に、汗をかきかき坂を上り下り。でも、みなさんがこれをお読みになっている頃は、町歩きにはちょうどいい季節でしょう。ぜひ、“ぽいす”を片手に田端の町を散策してみて下さい。最後に、実習生のみんな、ご苦労様。 (直)

平成16年度下半期の主な催し物

10月～12月

秋期企画展「赤羽台の横穴墓」
（10月23日～12月5日）
講座「第2回はじめての北区めぐり」
（10月23日・30日・11月6日）
講座「熊野学講座 地元語り部と熊野古道をゆく」（10月25日）
講座「鎌倉探訪」（11月14日・21日）
講座「第8回遺跡探訪 南関東横穴墓巡り」
（11日20・23日・27日）
講座「浮世絵講座」（12月4日・11日）

1月～3月

学校対応展示&体験学習
「来て、見て、さわって！昔の道具」
（1月6日～2月27日）
講座「第7回新聞から読む考古学2004 パート3」（1月29日）
講座「第4回中級考古学講座」
（2月27日・3月6日・13日・20日）
春期企画展「リッチモンド王子」
（3月18日～5月8日）

催し物名は仮称です。

●文化の日は博物館へ

11月3日（祝）文化の日は、常設展示室がなんと無料でご覧になれます。まだご覧になったことがない方は、これを機に北区の歴史に触れに来てみてください。お待ちいたしております。

●年末年始の休館のお知らせ

今年は12月27日が月曜日なので、例年より1日早く27日から休館となります。お間違えの無いよう、よろしくお願いいたします。なお、年始は例年通り1月5日（水）より開館いたします。

北区飛鳥山博物館だより
ぽいす 13
発　行　平成16年9月20日
編　集　北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL.03-3916-1133
発　行　東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL.03-3908-1111（代）
印　刷　文明堂印刷 株式会社
刊行物登録番号16-2-014